

## 第13期 第10回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 平成29年10月31日（火）9時30分 ～ 12時05分

2 会 場 鳥取市役所本庁舎 4階 第2会議室

3 出席者 【委員】

本名俊正委員（会長）、野口淑文委員（副会長）、渡辺勘治郎委員、  
長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、  
山田康子委員、牛尾柳一郎委員、田中弘之委員、森本早由里委員

【教育委員会（事務局：校区審議会）】

木村義彦次長、石上直彦主査兼指導主事、大坪宗臣主任、井上宏主事

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名委員の選任
- 4 報 告
  - (1) 第9回校区審議会審議概要について
  - (2) 校区審議会に関連する活動報告について
  - (3) 鹿野地域小中一貫校の設置について
- 5 議 事
  - (1) 第13期鳥取市校区審議会「中間まとめ」について
  - (2) 江山校区の学校のあり方について
- 6 その他
- 7 閉 会

5 議事の概要

### 事務局

おはようございます。定刻になりましたので、只今より、第10回鳥取市校区審議会を開会いたします。

前回の校区審議会で逢坂小学校視察のお話がありまして、学校との調整やバスの手配等したところ、11月20日の午後に開催いたします。委員の皆さまのお手元に開催通知をお配りしておりますので、ご確認をお願いします。

本日は、最初に前回までご議論いただいた「中間まとめ」の最終案についてのご確認をお願いします。委員の皆さまの合意が得られましたら、午後の定例教育委員会にて会長から教育長にご提出いただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

また、前回「江山校区の学校のあり方を考える会」から会長以下3名にお越しいただき、意見交換も行っていました。前回の審議会を受けて、新たな資料もご用意しておりますので、慎重なご審議をお願いいたします。

それでは、会長よりご挨拶をいただきまして、以後の会の進行をお願いいたします。

## 会長

皆さん、おはようございます。

寒くなりましたね。我が家ではストーブを焚いております。鳥取大学前駅にイチョウの木が11本ございまして、そのうち5本は実がなります。台風の影響もあるかもしれませんが、昨年、一昨年に比べて早く実が落ちているため、今年の冬も寒くなるのではと話をしていました。北海道では雪が降っているようですが、鳥取は秋がとても長いですね。晩秋から、冬になる時期になりましたが、学校区の方は様々な課題がございます。本日は大きく2つの課題について議論します。1つは「中間まとめ」について、もう一つは江山校区についてです。

先ほどお話がありましたが、本日の審議で「中間まとめ」にご了解いただければ、午後1時半から教育長に答申という形でお渡しし、その後すぐに教育委員会の本会議となります。昨年度から議論いただいた内容が表に出ることになります。今後も様々な課題がございますので、引き続きご検討いただきたいです。また、11月には気高町内の学校見学を予定しています。小規模校としての課題や、小規模校をより魅力のある学校にするために、統合あるいは様々な考えがあると思いますので、地元の方々と連携を取りながら、よりよい鳥取市の教育を考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

続いて、本日の会の議事録署名委員の選任に移ります。今回は名簿順で吉澤委員と川口委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、報告事項3点ございますので、まとめて事務局からご説明をお願いします。

## 事務局

[資料説明]

## 会長

ありがとうございました。3つまとめてご報告いただきましたが、委員の皆さん、ご質問・ご意見等ございますでしょうか。

鹿野の義務教育学校は来年4月から開校ということで、色々な準備を今年中に終えないといけません。順調でしょうか。

## 事務局

大きな教育ビジョンや教育目標は決まって、現在、9年間の一続きの教育課程の編成を学校中心に行っているところです。先ほど報告のありました表驚科につきましては、新設教科です。学習指導要領に沿った内容で一つ教科を増やすこととなりますから、どの時間から時間を見出すのかなど、学校内で検討しており、その辺りに時間が必要です。新しく一つの組織となるわけですが、二つの職員室に分かれますので、どのような校務分掌にしていくかなどを〇〇先生にご指導いただきながら進めていくところです。

## 会長

6年生は初めから中学校の方に一日中いるわけですね。小学校の先生が6年生を受け持つのか、又は教科制になるのでしょうか。中学校の方に時間を取られることとなりますが、行き来するという

ことでしょうか。

## 事務局

教職員の異動や担任、分掌を含めて今後検討予定です。6年生は現中学校の校舎で朝から生活をしますので、基本的に小学校の学級担任制も入れながら、場合によっては教科担任制で指導したり、小学校の担任と中学校の教員でチームティーチングをしたりすることになると思います。

## 会長

中学校の先生は教科別ですので、小学校6年生は担当しやすいと思いますが、小学校の先生が中学生を担当することもあるのでしょうか。

## 事務局

その可能性もあると思いますが、それよりも、小学校6年生の担任をしながら、中学校の先生と指導をすることが中心になると思います。

## 会長

わかりました。委員の皆さんから何かご質問等ございますか。いよいよ新しい制度が始まるわけですね。

報告事項3点ともよろしいでしょうか。もしご質問等ございましたら、また後でも結構ですので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります。議事の(1)「第13期鳥取市校区審議会「中間まとめ」について」ということで、前回の会議後、事務局が皆さんに修正依頼を郵送でお願いいたしました。その後ご確認いただいたと思いますが、さらに事務局で検討、修正した後、今回最終案としてまとめたものが別紙でございます。これについて、事務局で説明をお願いいたします。

## 事務局

[資料説明]

## 会長

ありがとうございました。これまでと大幅な修正はございません。先ほどご説明がありましたとおり、気高の部分で要望書の提出があった旨を付け加えています。いかがでしょうか。

今まで何度か見ていただいていますので、大幅な変更はないと思いますが、細かなことでも結構ですので、お願いします。

ご意見ないようですが、よろしいでしょうか。こちらは「中間まとめ」ですので、今後も引き続き様々な課題を検討し、まとめて答申したいと思います。

それでは、校区審議会全体の合意が得られたということで、最終決定としてよろしいでしょうか。

<拍手をもって合意>

## 会長

それでは、別紙に10月31日と日付を入れていただき、「最終案」を削除してください。この形で教育長に答申をさせていただきたいと思います。

続いて議事(2)「江山校区の学校のあり方について」に移ります。参考資料を見ながら事務局にまずご説明いただき、審議していただきたいと思います。よろしくお願いたします。

## 事務局

[資料説明]

## 会長

ありがとうございました。只今のご説明を踏まえて全体でご質問、ご意見を伺い、頃合いを見てお一人ずつご意見を伺いたいと思います。前は「考える会」の会長、副会長、委員の3名にご説明いただきました。自由に討議いただきたいのですが、神戸小についてはなるべく早くということと皆さん合意されていると思いますので、中学校をどうするかということだと思えます。色々なご意見があると思います。神戸小については、今年中に校区審議会で結論を出したとしても、教育委員会の決定等を踏まえると、平成30年の4月は無理で、平成31年4月が最短となります。そのことも考えていただきながら、最終案をできれば12月までにまとめたいと思います。11月の気高の視察は、ほぼ見学のみとなりますので、江山地区の話をするのは難しいと思います。ご意見を頂き、課題を詰めていきたいと思えますのでよろしくお願いたします。それでは〇〇委員、お願いたします。

## 委員

江山中学校区の学校のあり方については、前回にもお話ししてもらいましたが、神戸小と美和小の統合は急ぐべきこととありますので、第一に考えていただきたいです。中学校については、福部の一貫校の場合とは少し違う気がします。地域の状況にもよりますが、今後の学校を考えると近隣の中学校と統合した方がよいのではと思います。その中で、河原、高草、桜ヶ丘のそれぞれの中学校と統合した場合の資料がありますが、一番に思うことは、江山校区とそれぞれの地域とのつながりがどの程度あるのかということです。桜ヶ丘はまた別だと思えますが、そういったことをもう少し検討してからでない、中学校の統合と言えないと思えます。

## 会長

他にございませんか。どうぞ自由にご発言ください。

## 委員

先ほど〇〇委員のお話にもありましたが、仮に小中一貫校にするとしても、江山中学校の規模が小さいので、教育効果を考えるとある程度規模があった方がよいという話がありましたし、福部や鹿野と比較すると、交通の便等を考えると、他の中学校との統合を検討しやすいのかなと思えます。他の小中一貫校とは少しニュアンスが違うと思えますので、障害となることを考えてから、中学校全体のあり方を考えた方がよいと思えます。仮に小中一貫校にしても、生徒数が増加しなければ10年後は統合が必要になるかもしれません。一度小中一貫校にする、統合のハードルは高くなると思えますし、

今のうちにある程度決めておかないと難しいと思います。

話が戻りますが、南中の時も、規模が大きくなりすぎるので、私は分離した方がよいと思いました。分離して、新しい中学校が倉田寄りにできれば、江山中との統合もあるかなと想定していましたが、一度決めてしまうと方向転換が難しくなってしまうので、やはりある程度長いビジョンでのあり方を考えた上で、江山中学校の結論を出せたらと思います。

## 会長

他にございませぬか。資料の地図を見ますと、点線で囲まれた部分が南中校区ですが、江山や河原付近まで南中の領域になっていますね。当時の校区審議会では、その部分を江山校区に再編するという案はなかったのでしょうか。遡って変えることはできないのですが、審議経過としては、南中の生徒を少なくして江山中に移すという案は出なかったのですか。

## 委員

私が言ったような気がしますが、倉田を江山中校区に再編する案は、深くは議論されなかったですが出たと思います。

## 事務局

私の記憶でも深く議論されなかったと思います。千代川を渡ることになることも課題として出ていたと思います。

## 委員

渡ろうと思ったら遠回りになりますよね。源太橋を渡るか、円通寺の方から迂回するかで、直線でいい所に橋がないので、少し大回りになります。

## 委員

南中学校区は、倉田小学校が一番南ですよね。過去の統合の歴史をみると、南中校区に再編したために通学の距離が伸びたということで、行政の責任で、遠距離通学費の制度を導入しています。現在もあるのでしょか。

## 事務局

ございます。ある程度の一定額まで補助し、保護者の負担が同等となるような補助の形式です。

## 委員

近隣の幹線道路までの出入りについても配慮されているはずで、平成16年11月1日の合併の際も、南にはほとんど意識がなかったと思いますし、河原に行くことはその時は考えていなかったと思います。そのため、今新たに考えようとする、ずっと先のことを考えておかないと、その措置を変えるのは難しいと思います。声がなかったのもそのためではないかと思うので、案としてはもう少し長いスパンで、例えば20年、30年先のことを考えておかないと、規模が小さくなる以上、再度見直しの可能性を視野に入れたいといけません。南中の例でも〇〇委員がおっしゃったように「規模

が大きくなるのがわかっているのになぜ。」ということがあるので、市民の皆さまの了解、理解、納得を得るためずっと先の見通しも校区審議会は見ておかなければと思います。二段階ということですかね。

## 会長

他にございませんか。

## 委員

この前考える会の皆様のご説明で皆さん思われたと思いますが、小中一貫については、合意の率が低いと思います。小学校の統合に賛成が9割を超えているのに対して、小中一貫の賛成は約6割です。その合意の率が曖昧だったと思いますので、その辺も見通しとして持つておかなければと思います。

## 会長

他校の場合は、もっと高い割合で合意が得られていたと思いますが、江山の場合はまだ十分な合意が得られず、皆さんの気持ちが高まっていないような気がします。執行部と住民の皆さんがまだ少し離れているような気がします。

鹿野や福部については、もともとの市町村単位が鳥取市と別だったのでまとまりやすかったと思います。今回は同じ旧鳥取市内での新しい目論見ですので、湖南が上手くいっているということもありますが、もう少し準備が必要な気がします。

## 委員

福部や鹿野から要望書を受け取り回答する前に、福部は約4か月、鹿野は約2か月かかっています。恐らく、一小一中ということもあり、「わが町に学校を残したい。」という思いがあったことでしょうから、要望書を出される前に幅広く議論を行っていたという経過があると思います。答申までに2か月というのが早いかはわかりませんが、会長がおっしゃったように、江山の場合、神戸については喫緊の課題があると思います。美和小という相手方があることなので、江山一体でももう少し議論をしていただきたいと、教育を考える会に校区審議会として言っていくと言いますか、一段階、二段階の準備が必要かなと思っているところです。

## 委員

先ほども少しお話ししましたが、確かに神戸小については喫緊の課題かと思えます。考える会のお話を聞いていて、小中一貫ありきのような形で非常に熱を持って話されていましたが、前回の会では時期尚早と話をさせていただきました。今のまま小中一貫となると、将来的には考え直す必要が出てくるかもしれません。慌てて小中一貫という結論を出すのではなく、もう少し考える会で話合いの機会を設けていただきたいです。

## 委員

合併前は大和、美穂の地区は千代流れということで連携がありました。あの辺りの皆さんは考え方が一緒だと思いますので、高草中と一緒に考えるのではなかったところですか。

## 委員

鳥取市内の小さいエリアにたくさんの学校があるという問題があるため、新市の統合が進まないという事情がありますよね。やはり中学校全体を見ながらバランスを考えていかなければと思います。生徒数が100人以下になりそうな中学校が、17校中7つか8つあると思います。一番規模が小さいのが湖南で46人です。過去の経緯を考慮に入れると、小さくなってしまったために、中学校の運営が大変だということやそれぞれのエリアの特徴、例えば新市と江山では違うということ踏まえながら全体で考えていかなければと思います。ここだけ別に扱った方がよいのか、ということがポイントだと思います。

## 会長

なかなか難しいですね。要望書にそのまま答えにくい状況があります。というのも熱意は感じられますが、地元がそれほど一致団結しているわけではないということが一つあります。もう一つは、中身について提案があってもいいということです。

前回、〇〇委員から提案がありましたが、やはり、仮に小中一貫とするにしても、こちらからもサポートする形で、中身を練るための資料提供や助言が必要で、中身の向上を図らなければ、どこかがやっているからうちもというだけでは難しいと思います。

いずれにしても、子どもたちが将来に渡って安心して勉学ができ、住民の方も納得いただける形を採りたいと思います。

確かに、河原はもともと別の市町村でしたが、今は鳥取市で10年経っているので、区別はなくしていかなくてはと思います。その辺を含めて全体として考える、あるいは場合によっては特例として考えることが必要だと思います。ある意味では、色々なことを考えるいいチャンスかなと思います。実際に江山中に行きましたが規模が小さく、部活動も限られているので、もう少し規模が大きい形を採るのか、あるいは小さい規模で残るのであれば、近隣の学校と色々な情報教育をする、または保護者や地域の方々のサポートを得て、色々な課外活動ができるような仕組みも入れていけたらと思います。

今後は、人数がかなり変動していきます。減る一方のところや、場合によっては増えていくところもありますし、10年後、20年後、30年後が予測できるところとできないところもあります。仮に小中一貫にしても、恐らく10年後には練り直す必要が出てくると思いますので、それまでの一時的な措置ということになると思います。

もう一つに、地元の要望と違う結論を出した場合、説得力のある形で出さないといけません。地元の審議は進んでいるのでしょうか。それか、我々が事務局と話をする機会を持ってそうでしょうか。

## 事務局

7月の終わりに要望書の検討をされた後は、会議はされてないと聞いております。

## 委員

こちらの回答を待っていらっしゃるのですか。

## 事務局

はい。

## 会長

例えば、こちらから、「もう少し住民と執行部で話し合いをしていただけませんか。もう少し中身を詰めてもらえませんか。」と言える話し合いの場は設けられないのでしょうか。

## 事務局

その辺りは話をしておりますので、お答えしかねます。私も何回か地域での説明会に伺いました。その際、考える会の方がおっしゃっていたのは、地元で話をする時に選択肢として提示すると、「小中一貫校って何なのか。わからないものに意見は言えない。」となり、小中一貫の説明をすると「小中一貫校ありきだ」となるそうです。今回、賛成率がそれほど高くないのは、こういった地元の方に説明する際の難しさが関係しているかなと思います。

したがって、ある程度審議会から方針を出していただき、「このような学校をつくっていく」ということを検討したうえで、住民の理解を得たいというのが前回の話だったと思います。

## 委員

小中一貫を勧めるというスタンスではなくて、地元が考える選択肢の一つに小中一貫校があるので、「小中一貫校とはこんなものです。」というようにこれまでの鹿野、福部、湖南の例を少し紹介するようなことをし、事務局で働きかけをしながら、一緒になって地域住民の理解を得ていくことが必要かと思います。

## 事務局

考える会の中では、冒頭に、「小中一貫校とはどういうものなのか、どう変わるのかを説明してほしい。」ということで、事務局で説明させていただきました。

それを受けて、教育委員会が地元で説明すると「その方向か。」となってしまうので、委員の方が小中一貫にするメリットやデメリットをまとめた資料を作成され、会で説明されました。

説明の際、「小中一貫校ってわからないのに意見の言いようがない。」と意見が出たため、情報交換や資料提供をし、準備してプレゼンテーションされたところ、「小中一貫校ありきか。」となってしまうので、難しさを感じておられました。

その辺り、私どもの資料提供や方法が不十分だったと思います。求められて会に出席し、説明したこともありましたが、全面に出て説明するということは今まであまりございませんでした。

## 委員

わかりました。そのような経緯があったのですね。



## 委員

そのエリアに学校を残すためには一貫校も選択肢としてあると思いますが、一貫校が必ずしも解決策ではないような気がします。今後、国の動き、方針、流れなどに注目し、全国的に進んでいるこの問題をどう解決していくのかという見通しも考えていかなければなりません。

一貫校にも、教員の配置や部活動等の様々な課題があるので、別の解決策を国が考えないといけないと思います。何校か一貫校にしているので、会長がおっしゃるように、10年のスパンで一貫校にしてみようということもあるかもしれませんが、総合的な視野に立ち、10年とは言わず20年30年先の見通しとして了解いただかないといけない気がします。

## 委員

先ほどからお話を聞いていて、「江山校区の教育のあり方を考える会」の主は一貫校に向いてはいるのですが、ここに住んでいる子どもたちが教育を受ける場合、学校は学びの場ですので、充実して学べる場になっていくかを見据えて、小中一貫校に決められているのかが疑問です。学校を残したいという地域の熱い思いはわかりますが、それだけではない気がします。今は、流れで小中一貫校ばかりにスポットが当たっていますが、例えば、千代南中のように小規模校が統合した場合の効果等にも目を向けたいと思います。小中一貫は選択肢の一つで、江山校区で暮らしていく子どもたちにとってどうなのかということ、もう少し地域の中で話し合っただけならと思いました。

## 会長

恐らく、一番大事なお話をしていただいたと思います。地元は学校が残ればよいという思いが強い部分があって、本当に子どもたちが小規模でいいのか、という心配が足りない気がしますし、将来に渡って子どもたちの数が減っていけば、一貫校にしたとしても、10年くらい先には統廃合の話がでてきます。もし一貫校にするとしたら、それなりの中身のいい形の学校をつくらないといけませんし、もっと子どもが減れば、いずれは、統合あるいは校区の変更になるということを考えていただかないと、そう簡単に結論は出せません。本当は、1学年2クラスで、クラス替えができるくらいになればいいのですが、小学1年生から中学3年生まで全く一緒のクラスですと、いい面もあれば悪い面もありますのでなかなか難しいですね。

大規模校の一部を小規模校に入れるようなことも含めて、全市的な考え方もどこかで常に持ってないと、要望書だけで「はい、どうぞ」という訳にはいかないと思います。いずれにしても教育の中身ですね。これから、どういう力をつけていかなければいけないのか。福部にしても、「英語の教育を鳥取随一にする。」のような理想、理念を持っていますので、その辺が少し薄いのではないかと思います。そのことをどこかで考えていただき、その中身から、「小中一貫校でいいんだ。」「いや、中学校は後にしよう、将来のことを考えてもう少し大規模にしよう。」という結論になればいいと思います。地元の案をどこかで練り直していただきたいと思いますが、先ほどの事務局のお話からすると、会合も開かれておらず、話も進んでいなさそうということですので、「これでもういいんだ。」ということになっていないか少し心配です。

考える会には、教職経験者も含めて教育の専門家もおられますので、そういう方が中心となり、集中的に練っていただくともう少しまとまった方向性が出るのではないかと思います。

神戸については統合で皆さん問題ないと思います。小規模ですが、いい授業、きめこまかい授業をされています。ただ、1学年2人のところや複式学級もありますし、保護者の要望も踏まえて美和小

学校と統合するのは、地元も教育委員会も納得すると思います。

小中一貫、9年制にした時に、どのような内容で子どもを育てるのは少し見えないので、どこかでサポートしながら、地元の考えが高まってくるといいなと思います。その中で、結論として小中一貫が出てくるのか、中学校については将来を睨んでどこかと一緒になるのか、校区を広げるのかということになると思います。校区を広げる、狭める場合はこちらの会で検討することになります。

## 委員

小中一貫校は確かに解決策ではありません。ずっと小中一貫校の議論をしている中で、子どもが増えないので、それとセットで小規模校転入制度を最大限利用して、今の生徒数を維持する、増やすということを目的として、小中一貫校を推進するということがあったと思います。一貫校になった学校が魅力ある学校を目ざすというのは、小規模校転入制度を利用して色々な生徒に来てもらい維持することが目的だと思います。その辺がわかっているならば、ただ単に小中一貫校をつくるのではなくて、加えて小規模校転入制度を利用して今の生徒数を最低限維持し、特色ある学校をつくるというのが、教育を考える会でも目的にならないと、結局、小中一貫校はありきではないということを明確に伝えれば、「ああそうか。小規模校転入制度で人を呼び込むための小中一貫校か。」という話になると思うので、その辺を伝えていけばご理解いただけると思います。小中一貫校にするメリット、魅力はそういうことですよということを伝えていかないと、やはり地域の方も盛り上がりません。一貫校をつくったとしても、生徒数は減っていくので、将来的には統合という話になるので、その辺をしっかりと地域の方にも理解していただき、ビジョンを持っていただくというのが大事なのではないかと思います。

## 会長

ありがとうございました。〇〇委員いかがですか。

## 委員

私もこれまでに委員の皆さまが述べられた考え方とほぼ同じです。小中一貫校が有力な選択肢のようになっているので、それが絶対ではないということを地元の方が議論されて認識を共有されないと、急いで結論を出してもいいことはありません。有力な選択肢でないということは他にも選択肢があるということで、それを含めて地元の方には議論いただきたいと思います。例えば、南中の一部の生徒に江山中に来てもらうという発想も先ほど出ていましたし、本日の資料では、江山の生徒が全員高草中、河原中にそれぞれ行く場合のシミュレーションでしたが、やり方によっては一部の生徒が行くこともできなくはないと思います。これだけ縦長の学区ですので、通学の利便性等を考えた時に、より高草中に近い地区は高草中に、河原中に近い地区は河原中に行くということもできなくはないと思います。もちろん色々な問題が生じるかもしれませんが、その辺りも含めてアイデアをもう少し私たちも勉強し、地元の方々もアイデアや知識を得たうえで色々シミュレーションをし、江山中学校の子どもたちにどういった教育を受けてほしいのかということをやったり揉んでいく必要があるのかなと改めて感じた次第です。

目新しいことは私も今言えませんが、一つのやり方としてはそういうこともあります。色々なアイデアが出てくるので、急いで小中一貫を否定もせず、肯定もしない形で進めていけたらいいなと思います。

## 委員

〇〇委員の意見で考えますと、一つの小学校から二つの中学校に行く選択肢は、あまり好ましくないイメージがあります。例えば、小学校から神戸小の子どもは河原小に、美和小の子どもは大正小に行くという風にすれば、中学校区を分けることができます。

ただ、やはり、地域と小学校区を割って新しく中学校区を編成するのはよろしくないと思いますので、できれば地域と小学校区はワンセットでどこかの中学校区に振り分けるということを考えていかないと、特に中学校では、コミュニティスクールということで地域を取り込もうとしているので、地域を割って中学校区を分けると大変やりづらいと思います。地域の中に校区がいくつもあるのは、地域がまとまりづらいので、中学校区で考える際は、地域と小学校区は一括りで考えないといけないと思います。

## 委員

鳥取市の場合は、1小学校から複数の中学校に進学するのは1校もないのですか。

## 事務局

以前はあったと聞いております。城北小学校の子どもが、中ノ郷中と北中に分かれて進学していたそうですが、現在はありません。

## 委員

わかりました。鳥取ってある意味すごいなと思いました。私はよそから来ましたが、自分が通っていた小学校は二つの中学校に分かれて進学していました。関東の方ですと、1小学校から、だいたい2校ですが複数の中学校に分かれて進学する、そういった中でも小中の連携はしている自治体があります。この方法がよいとお勧めしているわけではなく、このような実態があるという情報提供としてお話をさせていただきます。

## 委員

中学校区を考える時に、小学校から中学校に移行するに当たって、中学校では、授業やボランティア等で地域の行事に参加し、地域の中で活躍させるということがあります。その辺りを踏まえて校区のことを考えていかないと、先ほど〇〇委員もおっしゃいましたが、なかなか難しいと思います。地域とのからみも考えていかないといけないと思いました。以上です。

## 会長

そうしますと、例えば、江山中の生徒を増やすために、高草中の生徒の一部を通わせるというのはどうでしょうか。小学校まるごとの方がよいのでしょうか。

## 委員

例えば、江山中で言えば、境は大正小校区の野寺、下味野からは美和小校区になります。一つの村を別の校区に分離するというのは、現実的に難しいと思います。

## 委員

校区審ではそういうことも考慮されるのでしょうか。例えば、千代水の一部が中ノ郷にということがありますよね。

## 委員

江津ですね。千代水地区は川を挟んで色々ありまして、県立中央病院があるところはもともと千代水でしたが、浜坂の公民館区の方が近く、そちらに行きたいということで千代水を脱退しました。秋里も千代水地区でしたが、城北の方がより近いということで脱退しています。

## 委員

地元の了解が得られた訳ですね。

## 委員

了解と言いますか、地元の町内会で千代水地区から脱退し、城北地区に行きたいという要望が出て、千代水、城北の両地区で合意が得られました。校区を考える上では、地域のつながりや線引きは関係ないのですが、考慮した方がいいというのが私の考えです。ただ、考慮しているだけで、本来なら校区はもっと自由に線引きしていいはずですので、地域の縛りが必ずしも校区の縛りではありません。地域のまとまりを分断するのはあまりよろしくないで、なるべく地域単位でまとまった方がいいのではと思います。校区審議会では、究極的には、地域のつながりは関係なしで決めていいと思います。

## 委員

河原や高草が話題に挙がりましたが、河原は以前の郡部で、今でも支所があって、地区自治会の事務はほとんど支所や公民館職員が行っており、旧市内の自治会とは運営方法が違ってきます。町内会や集落に対する対応もそれぞれ違うので、仮に河原と統合したとしたら、違いのある自治会同士が一緒になるため色々問題が出てくると思います。私は高草と一緒になれたら一番やりやすいと思います。今でも、自治連の中でも、合併地区は旧市内と運営方法が大きく違いますし、市からの補助金のあり方も違います。「どうして直されないのですか。」と聞くと、「公民館や支所と上手くいっているのに直す必要はない。」ということで、旧鳥取市域の運営方法に合わせて来られていないというのが現状です。

## 委員

自治会がからむ必要がありますし、無視はできませんよね。校区だけの話をしているのではないので。

## 委員

前回、考える会の3人がいらっしゃって、強く「小中一貫校を」と言われましたが、どういう思いでということをおっしゃっていませんでした。先ほどの〇〇委員の話聞くまでは、江山は河原と一緒にあったらいいなと思っていましたが、今回は小学校だけ対応し、中学校については先延ばしにしてもいいのではないかと思います。江山校区を小中一貫校にした場合、どこに行くのだろうと考え

た時に、3校見させてもらいましたが、江山中学校は建物が古いのでそこに建て直すのかなど色々考えると、美和に行くしかないと思いますし、建物の建築費用等を考えると今回は小学校だけでいいのではないかというのが私の考えです。

<休憩>

## 会長

それでは、再開します。

## 委員

中間まとめの最終案の5ページに、校区編成の方針決定までの考え方について、鳥取市校区審議会として、「地域の子どもの将来を見据え十分な議論がなされた結果については、基本的に尊重することとしている。」とあります。これが今期の校区審議会のスタンスです。

しかし、江山校区について、多くの委員の方が、十分な議論がなされたのかということに疑問を持っておられます。この視点で考えるならば、「もっと議論を尽くしてください。」という返し方もあるのではないかと思います。

そのような返しをして、地域から「要望書を提出したのにこれ以上何を議論する必要があるのか。」と問われたときに、将来を見据えてどんな子どもたちにしていきたいのか、あるいは教育の目標等を議論していくべきではないかなど項目を示してはどうかと考えます。「鹿野や福部はこのように要望書に教育内容や目標を入れています。その辺りがまだ十分とは言えませんよね。」というような返し方があるかと思えます。

具体的に、小中一貫校などを含め、色々な選択肢を入れるのも一つの返し方ではありますが、やはり今後1小1中のみならず、鳥取市内には複数の小学校を巻き込んだの統廃合や、小中一貫校や義務教育学校が出てくる可能性があるときに、学校を残すための方策として小中一貫校というものもあるのではないかと個人的には思うので、校区審議会としては、「地域として十分な議論をなさってください。」という返し方をしてもよいのではないかと思います。

## 会長

おそらく皆さんが一致できるところではないかと思いますが、いかがでしょうか。もう少し詰めていただくと我々としてもわかりやすいですし、住民の方についても、もっと広く納得していただける方が増えていくのではないかと思います。もし、小中一貫校ということになったとしても、その中身をもう少し詰めていただく、あるいは小学校だけの統合となった時も地域として中学校をどう考えていくのか、そのようなことも含めて議論を進めていただければと考えています。小学校の合併のこともありますので、時期のことを考慮すると、できれば1～2か月のうちに地域で議論をしていただき、我々も12月あるいは1月に再度審議を行うということで進め、とにかく神戸小学校の小規模化の解消を急がないといけません。新年度になる前に教育委員会でも検討できるような状況に持っていきけるよう、地域でももう少し詰めていただければと思います。ただ中学校を残すだけでなく、残すにはどのようにするかということを考えていただきたいと思います。

地域が我々の返事を待っているということであれば、こちらから、今のままでは校区審議会として結論が出にくいので、もっと地域から情報を出してくださいとアプローチするのが良いのではない

かと思えます。

また、PTAにとっては、自分の子どもが学ぶ中学校がどうなるのかという課題ですので、PTAの方々の意見も踏まえて江山校区の総意ということになれば最も良いと思えます。住民の方と考える会の方が少し離れているような気がしていますので、その辺の距離も詰めていただけたら良いのではないかと思います。

## 事務局

先ほどのご議論の中で、地域の子どもたちの将来を見据えた十分な議論を行っていただくということがありましたが、校区審議会として、学校のあり方を考える会に書面で依頼、あるいは要請をしていただいて、お届けさせていただいてはどうかと事務局として考えております。

ただ、この方法や、あるいは内容については、審議会の方でご検討いただければと思います。審議会でご検討いただいた方法で、事務局としては進めさせていただきたいと思えます。

## 会長

やはり、今の状況では結論がなかなか出しにくいと思えますので、もう少し地域で練っていただくということで、皆さんいかがでしょうか。もし、小中一貫校ということであれば、その中身をもう少し入れていただきたいですし、中学校の課題は後にするというのであれば、引き続きご検討をいただきたいと思えます。小中一貫校として、たとえ中学校を残したとしても、現在の生徒数では、おそらくいずれ再編の事態が来るのではないのかと思えますが、そのようなことで良いのかということも地域の方にも了解していただく必要があると思えます。例えばさらに生徒数が減少し、10年後などに、他の中学校と統合するとか校区を分割するという事も出てくるかもしれません。

## 委員

まず小学校を統合し、その後検討して小中一貫校とすると、学校名や校歌の決定などの作業が2回生じるからという理由で、一度に小中一貫校にするということはよくないと思えます。まずは、喫緊の課題を解決した後、時間をかけて慎重に議論を行うということが必要なのではないかと思います。もう少し時間をかけてしっかり議論をしていただくのが良いと思えます。

## 会長

そうした場合に、地域からどのような返事が返ってくるかにもよるのですが、神戸と美和については平成31年の4月には合併できるようにしないといけないと思えます。

小中一貫校として、少人数で9年間を過ごすということに関連してですが、先日、ある日本人学校のお話を伺いました。30名程度の日本人の小中学生に対して、校長先生を含めて6名の先生が、学年の枠を越えて授業を持たれているということでした。例えば、音楽の先生は小1から中3まで見るということです。そのようなことで、成果が上がっている面があるそうです。学年別ではなく、教科別に、小学校からグループ化してやっていくというのは、小規模校では今後出てくるケースだと思えます。そういうものも新しい学校のあり方の中では取り入れることで、学校全体の底上げにつながっていくのではないかと思います。先生が不得意な教科を教えるより、教科の免許を持っている方が、その教科を低学年から高学年まで教えていくことも方法ではないかと思います。江山でも何か工夫を

されれば、小規模校としての特色を出せるのではないかと思います。その辺りが、校長先生の裁量でできるのか、教育委員会の許可がないとできないのかということになりますが、教育委員会としては校長先生の裁量をもっと広げ、色々なことができる仕組みを取り入れてはどうかと思います。

また、湖南学園が小中一貫校として最初にスタートしていますので、どのような教育をされているのかということに関心があります。

## 委員

1年生から4年生までが初等、5年生から7年生までが中等、8年生と9年生が高等と、ブロック制になっておりまして、5年生からは中学校と同じ50分授業です。中間休憩もなく、教科担任制となっております。1年生から4年生までも英語教育が入っています。福部や鹿野もこのような工夫をされておられるのではないかと思います。小中一貫校は、中学校の先生がおられるので、このような取組をやりやすいと思います。

## 会長

子どもたちをこのように伸ばしたいので、このような学校にしていきたいというようなことがもう少し出てくると、この会で審議できるかなと思います。この会では、鳥取市全体のことを考えることになるわけですが、最初に申し上げたとおり、全体として考える部分と、特例で考える部分があると思います。10年先、20年先までずっとそれでいけばいいですが、場合によっては10年、15年で変わる可能性もあります。できれば変化がないよう、長いスパンで見たいと思います。

南中の議論の時に、片方が大きくなりすぎるので、例えば江山にくっつける等、何かもう一工夫あってもよかったのではと思います。〇〇委員のお話を聞くと、昔の市町村、あるいはそれぞれの支所を超えて校区を編成するのはなかなか難しいのかなと思います。

## 委員

地区の運営の仕方がそれぞれ違いますので、学校教育には影響ないとしても、統合後一緒になって色々な支援活動を行う中で、地区の関わり方も少しずつ変わってくるのではと思います。

## 会長

大きな鳥取市となり、徐々に変わっていくとは思いますが。

そろそろまとめないといけません。江山地区については、本日結論を出しにくいということで、地元で検討していただくことを書面でお願いするというので、次回以降、しっかり考えていただいて結論を出すということでしょうか。そこには、今までの委員の皆さまの発言を踏まえた形で最終的には結論を出したいですが、少し時間がかかると思います。

## 委員

先ほど〇〇委員がおっしゃった中等ブロックについて、教員免許が無いと教えられないですが、一貫教育が進んでいる中で、例えば、湖南学園の先生方には全員に兼務辞令が発令されています。そのため、小中両方で授業ができます。確かに会長がおっしゃったように、小学校の先生は苦手な教科も含めて教えないといけないという課題があると思いますので、中学校の先生のような専門性のある方

が小学校でも教えることができたらいいと思います。

兼務教員は桜ヶ丘中でも増えてきていて、西中にもいます。そういうことが進む可能性もありますが、「だから一貫校にする」と言われてもいけないということも説明には加えておかないと、理解は得られないと思います。

兼務辞令があることをご承知おきください。

## 会長

世の中が大きく変わっており、日本の企業は不利な状況になっています。昔の日本のよさが薄れてきています。これは教育だけの問題ではなくて、社会全体で危機的状況になっていると思います。視野が狭くなっているのではないのでしょうか。経済成長に乗っかり、慢心している気がするので、どこかで直していかないといけないと思います。

学校だけではなく、我々保護者の問題でもありますが、もう少しモラルも含めて、丁寧に子どもを育てていかないといけません。どこかで少しずれてきたと思います。そういった問題も含めて、よりよい将来に向けて子どもを育てるのは大人の責任です。変えるべきこと、変えてはいけないことを見極めながら少しずつ校区の中で教育を考えていかなければならないのではと思います。

鳥取市では色々な意味で新しい取組をされていますので、その中でいい学校ができて、いい子どもが育っていくのではないかと期待しています。江山の方にも、どういう子どもを育てたいのか、どういう学校をつくりたいのかを詰めていただきたいと思います。その上でまた、この会でご審議いただき、結論を出していただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

## 委員

前回お出でになった3人は、一人が神戸の代表、二人が大和の代表で、美穂地区の方がいらっやいませんでした。大和地区は小中一貫で意見が固まっているようなので、問題ないと思いますが、美穂地区が一番人口が多いですし、そちらの意見も一度聞いていただけたらと思います。

## 会長

ありがとうございます。今ありましたように、今のままでは結論は出しにくいので、江山地区全体でもう一度詰めていただけませんかということをお話し願えないでしょうか。よろしくお願いいたします。

委員の皆さま、何かございますでしょうか。

## 委員

江山地区の要望書に対する結論が出にくいというのは置いておいて、校区審議会としては、全ての中学校区において、規模の差が激しい校区について、この会で審議していくべきだと感じました。

## 副会長

江山だけでなく全体で考えなければいけないですね。河原など、昔の行政区が違うところは若干一緒になりにくい部分もあるでしょうから、今は高草周辺しか見ていませんが、これまでの行政区のことを考慮しながら、全体として考えていただけたらいいと思います。



各地域で独自のことをしたいということはいいと思いますが、「こういう教育をしたい」、「こういう子どもを育てたい」という思いは地域によって違うのでしょうか。

## 会長

ありがとうございました。全体で考えることは地域の方だけでは難しいので、この会でもサポートやアドバイスをし、事務局から色々情報提供をしながら進めることだと思いますし、今おっしゃった思いについては、地域によってそれほど差があるものではないと思います。

ただ、要望書が出てきて判断をせざるを得ない状況です。結論は一つではなくて二つのケースもあり得るでしょうし、要望書と違った結論でお返りする可能性もあるでしょう。その時には、市全体としての判断で、「要望書には添えないけれども、市としてはこう考えている」という結論を出さなければいけません。

いずれにしても、鳥取市あるいは鳥取市に限らず子どもたちの将来を考えた工夫が必要かと思いません。

本日の議事はこれで終了です。次回は11月20日、気高町内の見学に参りますので、集合時間等について、事務局から再度ご連絡をお願いします。

本日は午前中から長時間お疲れさまでした。難しい課題ですが、結論は出ると思いますし、出さなければいけないので、よりよい審議をお願いしたいと思います。本日はありがとうございました。

## 事務局

慎重なご審議ありがとうございました。以上で第10回鳥取市校区審議会を終了いたします。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 吉 澤 春 樹

署名委員 川 口 有 美 子